顧みられない熱帯病対策の動向

－日本およびグローバルな視点から－

新　山　智　基

はじめに

近年、西アフリカにおけるエボラ出血熱や中東・韓国等で発生が確認されているMERS（Middle East Respiratory Syndrome：中東呼吸器症候群）など、これまで一定の地域内での流行に留まっていた感染症が世界各地へと拡散するケースが増加している。その要因にはグローバル化に伴う交通網（航空網）の発達が大きく関わり、世界規模での対策が必要不可欠な状況となっている。

本稿で取り上げている顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases）もまたこうした影響を受け、世界的な脅威となり得る感染症であるとWHOは特定している。近年、顧みられない熱帯病の対象となる疾病が14から17へと増え（参考資料1参照）、それに伴い感染者（対象）も10億人から14億人に増加している。これは今後、さらに増加していくことが予想できる。国際的な動向でも顧みられない熱帯病対策への注目度は増し、主要国首脳会談やアフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development：TICAD）においても議論されている。

顧みられない熱帯病に対する対策は、2005年にWHOで専門部門が設置されて以降、多くの場で議題となってきたが、その背景には2つの流れが存在している。第1に、ミレニアム開発目標が設定されたことによる国際的な枠組みが、顧みられない熱帯病への取り組みを加速させるものとなった。具体的な文言は明記されていないものの、ミレニアム開発目標の目標6で示されている「HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」に該当している。目標6で設定されている具体的目標には、

- 2015年までにHIV／エイズの蔓延を阻止し、その後、減少させる。
- 2010年までに必要とするすべての人がHIV／エイズの治療を受けられるようにする。
- 2015年までにマラリアやその他の主要な疾病の発生を阻止し、その後、発生率を下げる。

が挙げられている。今や顧みられない熱帯病の解決なしには目標の達成は不可能であり、こうした国際的な枠組みによって、顧みられない熱帯病への対策の必要性が議論されるようになった。

第2に、日本が推進してきた寄生虫対策である。1997年のデンバー及び1998年のバーミンガムの両サミットで日本が主張した「橋本イニシアティブ」は、日本の「顧みられない熱帯病」対策の基礎となっている。また、2000年G8九州・沖縄サミットで提示された「沖縄感染症対策イニシアティブ」や、2008年の第4回アフリカ開発会議（TICAD Ⅳ）及び北海道洞爺湖サミットでの動向は重要なポイントである。

本稿では、（1）顧みられない熱帯病の実態や（2）我が国における顧みられない熱帯病対策の動向を整理するとともに、（3）WHOが示している2020年までの顧みられない熱帯病対策のロー

04新山智基④.indd　25　　2015/12/09　14:58:32

ドマップをもとにグローバル規模の対策を明らかにしていく。

1．顧みられない熱帯病とは

顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases）の問題は、地球規模の問題として捉えられるようになってきた。デング熱やハンセン病など17の疾病の総称が顧みられない熱帯病と呼ばれ、約14億人が感染し、死者は年間で50万人にのぼる。感染者数に比べ、死亡率が低いことから、エイズやマラリア、結核などと比べて対策が軽視される傾向にあった。また、社会的・歴史的、経済的、政治的などの様々な原因が複雑に絡み合うことで顧みられてこなかったのである。以下は、2015年 9 月現在、顧みられない熱帯病として取り上げられている17の疾病である。

① ブルーリ潰瘍（Buruli Ulcer）
② シャガス病（Chagas Disease）
③ 嚢虫症（Cysticercosis）
④ デング熱（Dengue / Dengue Haemorrhagic Fever）
⑤ ギニア虫症 (メジナ虫症）（Dracunculiasis(Guinea-Worm Disease)）
⑥ 包虫症 (エキノコックス症）（Echinococcosis）
⑦ 風土病トレポネーマ症（Endemic Treponematoses(yaws, pinta, endemic syphilis…)）
⑧ 食物媒介吸虫類感染症（Foodborne Trematode Infections）
⑨ アフリカ睡眠病（Human African Trypanosomiasis）
⑩ リーシュマニア症（Leishmaniasis）
⑪ ハンセン病（Leprosy）
⑫ フィラリア症（Lymphatic Filariasis）
⑬ オンコセルカ症（Onchocerciasis）
⑭ 狂犬病（Rabies）
⑮ 住血吸虫症（Schistosomiasis）
⑯ 土壌伝播寄生虫症（Soil-transmitted Helminthiasis）
⑰ トラコーマ（Trachoma）

これらの疾病は、表 1 にみられるような流行地に病原体・媒介を通じて猛威を振るっている。加えて、図 1 のように、熱帯地域・発展途上国地域を中心に、複数の顧みられない熱帯病の影響を受けている。特に、 5 つ以上の疾病の影響を受ける地域の多くはアフリカに集中していることがわかる。

2．日本における顧みられない熱帯病対策の動向

（1）橋本イニシアティブ

顧みられない熱帯病に関して注目されるようになったのは、日本の主張・影響が大きいといえる。その始まりとなったのは「橋本イニシアティブ」である。橋本イニシアティブとは、1997年のデンバー及び1998年のバーミンガムの両サミットで日本が主張した国際的な寄生虫対策のことを指す。1997年のデンバー・サミットでは、国際的な寄生虫への対策を提案し、翌年のバーミン

04新山智基④.indd 26 2015/12/09 14:58:32

表１：17の顧みられない熱帯病の基本データ

疾病名	流行地	感染者数（人）	病原体	媒介者
ブルーリ潰瘍	熱帯、亜熱帯	不明	細菌	－
シャガス病	中南米	600～700万	寄生原虫	サシガメ
嚢虫症	アフリカ、アジア、南米	4,000万	有鉤条（嚢）虫	豚
デング熱	全世界	5,000万～１億	ウイルス	蚊（ヤブカ）
ギニア虫病	アフリカ	126（2014年）	寄生蠕虫	ミジンコ
包虫症	全世界	100万以上	多包条虫	犬など（排泄物）
風土病トレポネーマ症	アフリカ、アジア、南米	250万（1995年）	細菌	－
食物媒介吸虫類感染症	アジア	5,600万	内部寄生の吸虫	巻貝、甲殻類、魚
アフリカ睡眠病	アフリカ	6,314（2013年）	寄生原虫	ツェツェバエ
リーシュマニア症	アジア、中近東、アフリカ、南米	1,200万	寄生原虫	サシチョウバエ
ハンセン病	全世界	21万5,656（2013年）	細菌	－
フィラリア症	熱帯、亜熱帯	１億2,000万	寄生蠕虫	蚊
オンコセルカ症	アフリカ、中南米	2,500万	寄生蠕虫	ブヨ
狂犬病	アジア、アフリカ	５万	ウイルス	犬など
住血吸虫病	アフリカ、南米、アジア	２億6,100万(2013年)	寄生蠕虫	巻貝
土壌伝播寄生虫症	全世界	15億以上	寄生蠕虫	－
トラコーマ	全世界	5,500万（2013年）	細菌	（ハエ）

＜出典＞World Health Organization. (2010), ‘Working to overcome the global impact of neglected tropical diseases’ および WHO が発表している各疾病の Fact Sheet 参照。

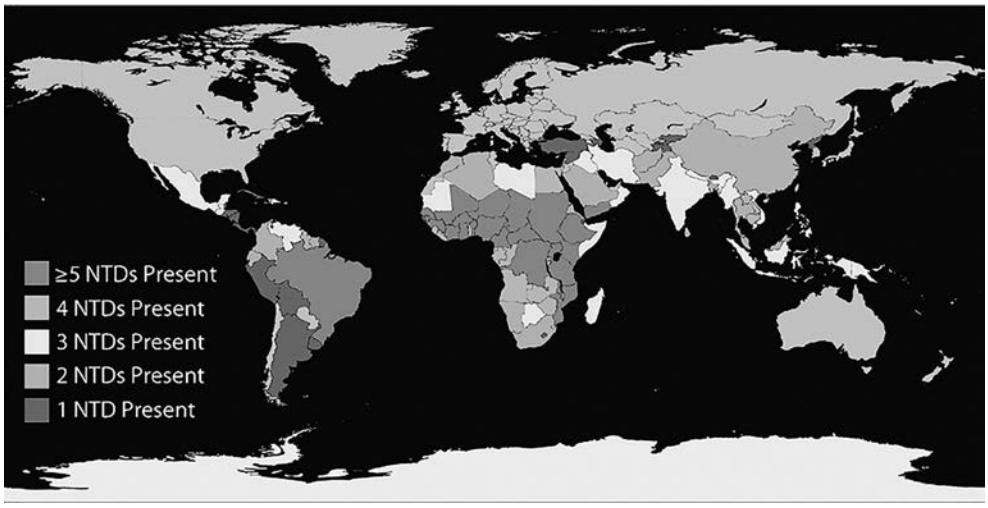

図１：複数の顧みられない熱帯病が影響している国

＜出典＞ Centers for Disease Control and Prevention: CDC
http://www.cdc.gov/globalhealth/ntd/diseases/ntd-worldmap-static.html

ガム・サミットで具体的に提言を行うことで合意した。橋本元内閣総理大臣は、1997年６月22日の記者会見で以下のような声明を出している。

感染症についての監視や緊急対応能力の向上に加え、寄生虫対策について、これを制圧してきた我が国の経験も含め、世界全体の現状と対策の方向などにつき世界保健機関や他の参加国の協力を得て、我が国が中心となって検討をすすめ、来年のサミットにおいて議論した

04新山智基④.indd　27　　2015/12/09　14:58:32

い旨を述べ、合意を得たところです。地球上には約35億人の寄生虫の罹患者がいます。これをひとつひとつ退治しいくことは、地味ではありますけれども、我々が取り組む大切な課題と私は思っています。

（橋本総理大臣内外記者会見記録（1997年６月22日　於：デンバー））

そして、翌年1998年のバーミンガム・サミットで具体的な提言を行っている。

感染症及び寄生虫症に関する相互協力を強化し、これらの分野における世界保健機関の努力を支援すること。我々は、何億人もの人々が経験している苦しみを除去し、マラリアに起因する死亡率を2010年までに大幅に減少させるための、新たな「ロールバック・マラリア」イニシアティヴを支持する。我々はまた、ワクチン開発、予防プログラム及び適当な治療法を通じ、かつ UNAIDS（国連エイズ共同プログラム）に対する支援を継続することによって、世界的なエイズ禍を減少させるための努力を継続する。我々は、エイズの予防と治療のためのフランスによる「国際治療統一基金構想」の提案及びその他の提案を歓迎すると共に、我々の専門家に対し、それらの実施のフィージビリティを迅速に検討するよう要請する。

（Ｇ８バーミンガム・サミット）

また、2000年のＧ８九州・沖縄サミットでは、日本の感染症対策への取り組みが提示された。これが「沖縄感染症対策イニシアティブ」である。このイニシアティブでは、①HIV／エイズ対策、②結核対策、③マラリア・寄生虫対策、④ポリオ対策、⑤人間の安全保障基金を通じた支援対策が中心となって取り上げられている[1)]。加えて、同時期に提唱されたミレニアム開発目標（詳しくは序文参照）において、直接的には取り上げられていないものの目標を達成するための対策として、顧みられない熱帯病に属する感染症への取り組みが重要となっていくのである。

（２）第４回アフリカ開発会議（TICAD Ⅳ）

2008年５月28日から30日に横浜で開催された第４回アフリカ開発会議（TICAD Ⅳ）では、アフリカの今後の開発の取り組みや方向性に関する政治的意思を示す「横浜宣言」、同宣言に基づいて TICAD プロセスの取り組みを示す「横浜行動計画」、TICAD プロセスの実施・検証を行う「TICAD フォローアップ・メカニズム」の３つの具体的な文書が取りまとめられた。顧みられない熱帯病に関しては、「横浜行動計画」の感染症対策のなかで、「意識向上、治療及び安全な水と衛生へのアクセスを通じ、顧みられない熱帯病（NTD）を抑制し、又は撲滅するための取組を行う」ことが確認されている（具体的な計画については表２参照）。

これに対して、日本政府（厚生労働省・外務省）・JICA は、「総合的な疾病媒介生物の制御を通じた資源の最適利用及び迅速かつ効果的な介入を行うことにより、顧みられない熱帯病（NTD）の制御と撲滅を強化」を打ち出し、ガーナやニジェール、ベナン、ケニア、ザンビア（2008・2009年実績）での無償資金協力・技術協力を実施している[2)]。

1)「外務省　日本の感染症対策への具体的取組み（沖縄感染症対策イニシアティブ・フォローアップ状況）」http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/ko_2000/genoa/infection2.html
2)「外務省　TICAD Ⅳフォローアップ（進捗状況：感染症対策）」http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/report/status/PR000174.html

04新山智基④.indd　28　　2015/12/09　14:58:33

表２：横浜行動計画における顧みられない熱帯病関連項目

●総合的な疾病媒介生物の制御を通じた資源の最適利用及び迅速かつ効果的な介入を行うことにより、顧みられない熱帯病（NTD）の制御と撲滅を強化
実施主体：日本政府（厚労省、外務省）／JICA
・日本政府（外務省）／JICA：保健に関する全体の予算430億円の中から無償資金協力・技術協力を実施
・日本政府（厚労省）：アフリカにおける顧みられない熱帯病（NTD）の制御と撲滅の強化のため、2009年度予算において、WHO へ資金拠出／増額をする予定

＜典拠＞外務省（2008）「横浜行動計画（別表）」p.12より抜粋。

（３）Ｇ８北海道洞爺湖サミット

2008年７月７日から９日に開催されたＧ８北海道洞爺湖サミットでは、首脳宣言／議長総括において顧みられない熱帯病の統制・征圧のための支援に合意し、保健強化等を目指し、600億ドルを今後５年間で供与することを表明した。また、保健専門家会合では以下のような指針が示されている。

> 推定10億人が、何らかの顧みられない熱帯病（NTD：Neglected Tropical Diseases）に感染しており、これは、貧困国の健康、経済、社会上の相当程度の負担となっている。NTD の統制または征圧に向けた努力を再活性化する必要がある。Ｇ８は、研究、診断・治療、予防、啓発、そして安全な水・衛生へのアクセス拡大などを通じて、WHO が掲げる NTD 疾病の統制または征圧の支援に取り組む。この観点から、我々は、WHO の計画を念頭におきつつ、保健システムの普及、貧困と社会的排除の緩和、ならびに、集団投薬をはじめとした十分な統合的公衆衛生アプローチの促進を通じて、アフリカ、アジア、ラテンアメリカの主要感染国において、特定の NTD に感染した少なくとも75％の人々に対して、支援を届けることができるであろう。３～５年間行動を継続することで、現在の負担を大幅に削減することができ、いくつかの疾病の征圧につながるであろう。
>
> （国際保健に関する洞爺湖行動指針：Ｇ８保健専門家会合報告書　p.7）

（４）伊勢志摩サミットに向けて

2016年５月に日本で開催される伊勢志摩サミットに向けて、顧みられない熱帯病対策も重要な課題として注目されている。これまでのサミットでも顧みられない熱帯病は取り上げられ、後述する2015年６月７日・８日にドイツで開催されたエルマウ・サミットにおいても、「Ｇ７エルマウ・サミット首脳宣言」内で顧みられない熱帯病対策に関する言及がなされている。

首脳会談直前の2015年５月27日から28日にかけて東京で開催された第４回グローバルリサーチカウンシル年次会合（4th Annual Meeting of the Global Research Council in 2015）では安倍内閣総理大臣からのビデオメッセージとして、以下の顧みられない熱帯病に関する言及がなされている。

> （略）一昨年、50か国を超えるアフリカの首脳らを、横浜にお迎えしました。昨年は、私自身、アフリカの地を訪問しました。あらゆる面で躍動感にあふれ、大きな可能性を秘めているアフリカを実感しました。科学の世界でも、これからアフリカが飛躍的に発展していくことは間違いありません。

04新山智基④.indd　29　　2015/12/09　14:58:33

今後、我が国とアフリカとの科学の絆を深め、研究者の交流や、共同研究を一層加速したいと思います。

アフリカの学術振興機関の能力開発とネットワークづくりを支援します。感染症研究について、アフリカ睡眠病やデング熱など「顧みられない熱帯病」に焦点を当てた新たな国際共同研究をスタートさせます。予防、診断、創薬、治療法の確立を目指すとともに、アフリカの優秀な若手研究者を育成します。（略）

（第４回グローバルリサーチカウンシル年次会合：安倍内閣総理大臣ビデオメッセージ）

多くの顧みられない熱帯病の影響を受けているアフリカでの対策・支援が急務であることは言うまでもない。日本はこれまで率先して医療・感染症分野への対策を実施している。来年日本で開催される伊勢志摩サミットにおいても、国際社会をリードしていく提言が表明されるであろう。

３．顧みられない熱帯病へのグローバルな対策

（１）顧みられない熱帯病対策のロードマップ

WHO が2012年に発表した「*Accelerating work to overcome the global impact of neglected tropical diseases － A roadmap for implementation*」は、2020年までの顧みられない熱帯病対策のロードマップを示している。本ロードマップの支援のために、アメリカ政府、イギリス政府、アラブ首長国連邦政府、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団、13社の製薬会社、世界銀行等からなる機関によって、2012年１月30日、2020年までに10の顧みられない熱帯病を対象として、撲滅・抑制を目指すための新たな取り組み「顧みられない熱帯病に関するロンドン宣言（London Declaration on Neglected Tropical Diseases）」が発表された[3)]。対象となった疾病には、シャガス病、ギニア虫病、アフリカ睡眠病、リーシュマニア症、ハンセン病、フィラリア症、オンコセルカ症、住血吸虫病、土壌伝播寄生虫症、トラコーマが挙げられる。これらの疾病に対して、13社の製薬会社は表３のような医療品提供の継続・延長、拡大することを表明した。

国際的な顧みられない熱帯病の取り組みが示されたのは2003年である。2003年にベルリンで開催されたワークショップにおいて、顧みられない熱帯病に関する報告が行われ、医療の取り組みだけでなく、貧困・教育などの様々な分野を取り入れた包括的なアプローチの指針が示された[4)]。また、2005年にベルリンで開催された戦略的かつ技術的な会議によって、予防とコントロールを推奨することが確認されている[5)]。2007年、スイスのジュネーブで開催された会議は、製薬業界との間でのパートナーシップが展開し、大きな転換期を迎えた。その結果、顧みられない熱帯病流行国で、製薬業界から提供された必須医薬品を用いた治療プログラムが増加した[6)]。WHO とそのパートナーは、長年にわたり、疾病に起因する多くの負担を効果的にコントロールすることを目指し、14億人に影響を与えている顧みられない熱帯病を根絶・排除していくことを可能とするデー

3）World Bank (HP) “Private and Public Partners Unite to Combat 10 Neglected Tropical Diseases by 2020,” http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/NEWS/0,,contentMDK:23100187~pagePK:34370~piPK:34424~theSitePK:4607,00.html

4）World Health Organization. (2004), ‘Intensified Control of Neglected Diseases: Report of an International Workshop’.

5）World Health Organization. (2006), ‘Strategic and technical meeting on intensified control of neglected tropical diseases: A renewed effort to combat entrenched communicable diseases of the poor, Report of an international workshop Berlin, 18-20 April 2005’.

6）World Health Organization. (2007), ‘Global plan to combat neglected tropical diseases 2008-2015’ .

04新山智基④.indd　30　　2015/12/09　14:58:33

表 3 ：製薬会社による医療品提供の概要

疾病名	製薬会社	治療薬名	提供内容
シャガス病	Bayer（バイエル）	Nifurtimox（ニフルチモクス）	2017年まで 1 年間につき90万錠を無償提供○
アフリカ睡眠病	Bayer（バイエル）	Nifurtimox（ニフルチモクス）	2017年まで 1 年間につき90万錠を無償提供○
		Suramin（スラミン）	2016年まで制限なく無償提供○
	Sanofi（サノフィ）	Eflornithine（エフロルニチン）	2020年まで制限なく無償提供を延長○
		Melarsoprol（メラルソプロール）	2020年まで制限なく無償提供を延長○
		Pentamidine（ペンタジミン）	2020年まで制限なく無償提供を延長○
リーシュマニア症	Gilead（ギリアド）	AmBisome（アムビゾーム）	445,000バイアルを無償提供○
ハンセン病	Novartis（ノバルティス）	Multidrug therapy（リファンピシン、クロファジミン、ダプソンによる多剤併用療法）	無期限、無制限に無償提供○
フィラリア症	Eisai（エーザイ）	DEC (diethylcarbamazine)（ディエチルカルバマジン）	2013～2020年にかけて22億錠を無償提供○
	GlaxoSmithKline（グラクソ・スミスクライン）	Albendazole（アルベンダゾール）	年間 6 億錠の無償提供○
	Merck & Co.（メルク・アンド・カンパニー）	Ivermectin（イベルメクチン）	無期限、無制限に Mectizan Donation Program を通じて無償提供
オンコセルカ症	Merck & Co.（メルク・アンド・カンパニー）	Ivermectin（イベルメクチン）	無期限、無制限に Mectizan Donation Program を通じて無償提供
住血吸虫病	Merck KGaA（メルク KGaA）	Praziquantel（プラジカンテル）	無償提供を無期限に延長し、年間 2 億5,000万錠を提供○
土壌伝播寄生虫症	GlaxoSmithKline（グラクソ・スミスクライン）	Albendazole（アルベンダゾール）	2020年まで毎年4億錠を無償提供○
	Johnson & Johnson（ジョンソン・エンド・ジョンソン）	Mebendazole（メベンザドール）	2020年まで毎年 2 億錠を無償提供
トラコーマ	Pfizer（ファイザー）	Azithromycin（アジスロマイシン）	2020年まで International Trachoma Initiative を通じて無償提供を継続

○は WHO を通じての提供を指す。
＜出典＞World Health Organization. (2012). ‘Accelerating work to overcome the global impact of neglected tropical diseases － A roadmap for implementation,’ p.15および World Bank (HP)“Private and Public Partners Unite to Combat 10 Neglected Tropical Diseases by 2020,” http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/NEWS/0,,contentMDK:23100187~pagePK:34370~piPK:34424~theSitePK:4607,00.html

タを蓄積している。

2010年には、顧みられない熱帯病に関する最初の報告書（*Working to overcome the global impact of neglected tropical diseases: First WHO report on neglected tropical diseases*）が公表され、プログラムを実施している国々での実態とその効果が示され、成功事例が紹介されている。この成功例によって、製薬業界からの支援増加につながっている。2012年 1 月、顧みられない熱帯病の予防、コントロール、撲滅に向けたビジョンとして、ロードマップとロンドン宣言が示された。

- 医療品など必要な供給を維持・拡大、確保するためにプログラムを強化する。
- 次世代の治療を開発するために、パートナーとの資金・技術協力を通じて、研究開発を推進させる。
- 効率的かつ効果的に協力するために、公的・民間の多国間組織を通じて、国家・国際レベルでの連携・調整を強化する。
- 国家レベルでは、流行国の保健システムをサポート・強化するために、必要な資金を有効に提供する。

04新山智基④.indd 31 2015/12/09 14:58:33

・これらのプログラムを評価し、監視するために、流行国に必要なツール、資源、技術支援を提供する。
・2020年の目標達成や残りのギャップを特定するために、定期的な進捗状況の更新を提供する。[7)]

ロードマップとロンドン宣言によって、明確に顧みられない熱帯病対策の指針が示された。貧しい人々のニーズを最優先とし、持続可能なコストを確保しながら技術提供をすることで、世界的な対策を進めている。

2013年１月には、顧みられない熱帯病に関する２つ目の報告書（*Sustaining the drive to overcome the global impact of neglected tropical diseases: Second WHO report on neglected tropical diseases*）が発表された。WHO は、2013年１月の第132回理事会において、2013年５月に開催される第66回世界保健総会（World Health Assembly）で、17の顧みられない熱帯病の問題解決に向けた議題を取り上げ、全疾病に関して包括的な決議を採択することを決定した[8)]。予防・コントロール、撲滅に向けたプログラムを推進するために、長期的な資金調達に向けた協力組織の拡大や、ロードマップの目標を達成・実行するための能力強化を目指す。ロードマップでは、2015年までに５つの顧みられない熱帯病、さらに2020年までに10つを排除することを目標に掲げている。また、コントロール強化が必要なものとして、デング熱、ブルーリ潰瘍、リーシュマニア症などを設定している。

また、2015年２月には、WHO から３つ目の最新報告書（*Investing to overcome the global impact of neglected tropical diseases: Third WHO report on neglected tropical diseases*）が発表され、各疾病の現状・進捗状況に加え、2012年に発表されたロードマップの目標を具体的に達成するために必要なこれからの投資のための分析がなされている。

（２）国際的な取り組み（Ｇ７エルマウ・サミット首脳宣言）

2015年６月３日、同月７・８日にドイツのエルマウで開催されるＧ７サミットに向けたメリケル首相の寄稿文で、顧みられない熱帯病に対して以下のような考えを表明している。

> Ｇ７は、これまでも繰り返し、世界の人々の医療・健康のため責任を担ってきました。今回のエルマウ・サミットでも、顧みられない熱帯病（NTD）の対策や、抗生物質の耐性菌問題の急速な拡大などを議論し、これまで同様責任を担っていきます。（中略）エルマウでは、被害国や国際機関の代表の人々とともに、こうした感染症に対する備えを強化するにはどうしたらよいか、感染阻止もしくは感染発生の際のより迅速かつ効果的対処をどのように実現できるかにつき協議します。体系的な総合計画と充分な資金を備えた国際的なタスクフォースの立ち上げは、中期的な目標となってしまうと思いますが、今からこれを見据えた取組を進めなければなりません。
>
> （「生きる価値ある世界を」『読売新聞』2015年６月３日付朝刊　７面より抜粋）

7）‘London Declaration on Neglected Tropical Diseases’
http://www.who.int/neglected_diseases/London_Declaration_NTDs.pdf
8）World Health Organization. (2013), ‘Sustaining the drive to overcome the global impact of neglected tropical diseases: Second WHO report on neglected tropical diseases’.

04新山智基④.indd　32　　2015/12/09　14:58:33

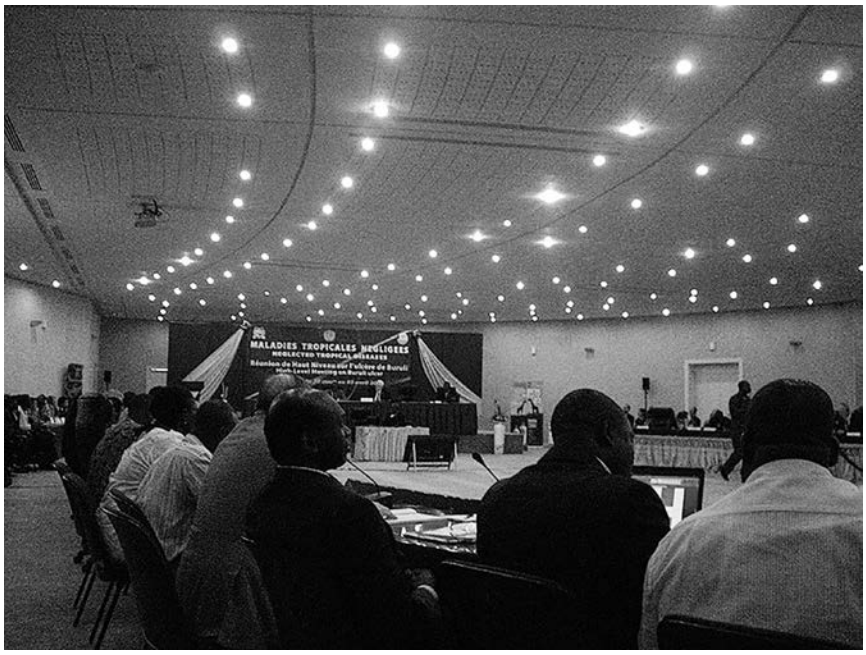

写真１：African Summit on Neglected Tropical Diseases（Technical sessions on Buruli ulcer）の様子
（2009年３月31日　筆者撮影）

※2009年３月30日から４月３日にかけて、ベナン共和国コトヌーで African Summit on Neglected Tropical Diseases が開催された。本サミットでは、ブルーリ潰瘍、アフリカ睡眠病、リーシュマニア症、イチゴ腫（yaws）の４つに焦点が当てられた。

写真２：顧みられない熱帯病の１つであるブルーリ潰瘍の国際会議
（WHO Meeting on Buruli Ulcer Control and Research）の様子
（2015年３月23日 スイス・ジュネーブ、WHO 本部にて筆者撮影）

04新山智基④.indd　33　　2015/12/09　14:58:33

これを受け、Ｇ７エルマウ・サミット首脳宣言では顧みられない熱帯病に関して次の内容が盛り込まれた。

> 我々は、顧みられない熱帯病（NTDs）との闘いにコミットする。我々は、NTDs に対処する新たな手段の策定及び実施において研究が極めて重要な役割を果たすと確信している。我々は、保健研究開発に関する WHO グローバル・オブザーバトリーを含む主要なパートナーと連携して取り組む。（中略）我々は、最も緊急なニーズのある分野に特に焦点を当ててNTD 関連の研究を支援することにコミットする。我々は、こうした分野を特定するためのＧ７の科学アカデミーの役割を認識する。特に、我々は、予防、管理及び治療に関する基礎研究並びに容易に利用可能で安価な薬、ワクチン及び患者の身辺での検査技術のより迅速で目標を絞った開発に焦点を当てた研究の双方を促進する。
>
> 我々は、保健システムを強化する自らの努力の一部として、全ての人々が利用可能で安価な質の高い必須保健サービスを引き続き提唱する。我々は、治療を提供し、またその他の方法でこれらの疾病を予防し、管理し、最終的に根絶するための、コミュニティに基礎を置いた対応メカニズムを支持する。我々は、2020年の撲滅目標を達成するため、NTDs の予防及び管理に投資する。（略）
>
> （Ｇ７エルマウ・サミット首脳宣言より抜粋）

依然として、顧みられない熱帯病が蔓延している国々の保健システムは脆弱なものであり、こうした状況下における治療、予防、管理の持続可能な取り組みの実施は必須なものとして再三、議論・提唱されてきたにも関わらず、今日において根本的な解決策は見つかっていない。「全ての人々が利用可能で安価な質の高い必須保健サービス」の実現は、先進諸国が担わなければならない最低限の目標のひとつである。

むすびにかえて

我が国における顧みられない熱帯病対策は、「橋本イニシアティブ」をきっかけに世界に大きな働き掛けをする重要な機会となった。1990年代の日本の国際的な寄生虫対策が転機となり、2000年代に入ると Neglected Tropical Diseases が世界で注目されるようになり、2010年代の現在、ロードマップで示されたように多様な組織の積極的な対策参加が実現している。ミレニアム開発目標とも関連し、感染症にかかわる多くの指標・設定された削減目標を達成するには、罹患者が14億人を超えるとされる17の疾病（顧みられない熱帯病）への対策は必要不可欠なものとなっている。無論、ここで指定されていない疾病も無視することはできず、潜在的な顧みられない熱帯病は多く存在すると考えるべきである。

医療・保健分野の国際機関である WHO は、個別対象となっている疾病への対策は行ってきたものの、顧みられない熱帯病というひとつのパッケージとして捉え始めた（Neglected Tropical Diseases という言葉が頻繁に登場し始めた）のは2000年代に入ってからである。対象となっている疾病の多くはすでに治療薬が開発されており、安価に提供することが可能となっている。しかし、途上国では安価な治療薬ですら購入できない切迫した状態と言わざるを得ない。また、治療

04新山智基④.indd　34　　2015/12/09　14:58:33

薬を入手することができても、感染者が病院を受診しない[9]、必要な患者に届けられないなど、多くの問題が複雑に絡み合っている。こうした状況を理解したうえで、対策を講じることが求められている。

途上国における日本の医療・感染症分野の対策の蓄積は大きく、例えば西アフリカではガーナ共和国にガーナ大学医学部附属野口記念医学研究所を日本の援助によって1979年に設立するなど、その貢献は多大である。顧みられない熱帯病においても、治療薬開発など積極的な取り組みを実施している。例えば、2015年３月に日本薬学会で開催されたシンポジウム『日本発 顧みられない熱帯病治療薬開発への挑戦』では国内の治療薬開発の状況が示された[10]。また、2015年10月に発表されたノーベル医学生理学賞では、顧みられない熱帯病であるオンコセルカ症やフィラリア症の治療薬である「イベルメクチン（*Ivermectin*）」を開発した大村智氏の研究が注目を浴びている。

来年2016年には、日本で伊勢志摩サミット、ケニアでアフリカ初開催となる第６回アフリカ開発会議（TICAD Ⅵ）と、立て続けに顧みられない熱帯病にとっても重要な議論となる場が用意されている。グローバルヘルスの観点からも、顧みられない熱帯病に対する対策・議論がどのように進むかが注目される。

参考資料１：顧みられない熱帯病に指定されている疾病の変化

2006年当時に指定されていた14疾病（※１）	2010年から現在までに指定されている17疾病（※２）
ブルーリ潰瘍	ブルーリ潰瘍
シャガス病	シャガス病
コレラ（Cholera/Epidemic Diarrhoeal Diseases）	
デング熱	デング熱
ギニア虫病（メジナ虫症）	ギニア虫病（メジナ虫症）
風土病トレポネーマ症	風土病トレポネーマ症
アフリカ睡眠病	アフリカ睡眠病
リーシュマニア症	リーシュマニア症
ハンセン病	ハンセン病
フィラリア症	フィラリア症
オンコセルカ症	オンコセルカ症
住血吸虫病	住血吸虫病
土壌伝播寄生虫症	土壌伝播寄生虫症
トラコーマ	トラコーマ
	嚢虫症
	包虫症（エキノコックス症）
	食物媒介吸虫類感染症
	狂犬病

※１ World Health Organization. (2006), ‘Neglected Tropical Diseases, Hidden successes, Emerging opportunities’.
※２ World Health Organization. (2010), ‘Working to overcome the global impact of neglected tropical diseases: First WHO report on neglected tropical diseases’.

9）経済的に受診できない状況に加え、伝統的な治療（例えば、薬草や呪術によるもの）によって病院施設を訪れないケースが報告されている。
10）本シンポジウムの報告ペーパーとして、臨床評価（第43巻第1号、2015年、発行：臨床評価刊行会）に各発表者の報告が掲載されている。

04新山智基④.indd 35 2015/12/09 14:58:33

参考資料２：顧みられない熱帯病の発生状況（最新情報）

疾病名	発生状況
ブルーリ潰瘍	西アフリカや中央アフリカ諸国、東南アジアなどの熱帯・亜熱帯地域を中心に少なくとも33の国と地域から症例が報告されている。
シャガス病	流行地域は中南米の21ヵ国が大部分であり、推定600～700万人が感染している。
嚢虫症	サハラ以南アフリカや南・東南アジア、ラテンアメリカを中心に約4,000万人が感染している。
デング熱	現在世界的な拡がりを見せ、年間5,000万～１億人が感染し、世界人口の40%に当たる25億人以上にデング熱のリスクがあると考えられている。
ギニア虫病（メジナ虫症）	1980年代中頃には、アフリカなど20ヵ国で350万人の感染者が発生していたが、2014年には年間126人（４ヵ国：チャド、エチオピア、マリ、南スーダン）まで感染者は減少している。
包虫症（エキノコックス症）	世界で100万人以上が感染し、症例の多い地域には北アフリカ、中央アジア南米南部、地中海東部、ヨーロッパ南部・東部、シベリア、中国西部がある。
風土病トレポネーマ症	現在、主に熱帯雨林気候のアフリカやアジア、ラテンアメリカ地域で症例が確認されている。感染者の約75%は15歳未満の子どもである。
食物媒介吸虫類感染症	東南アジアや中南米で感染が多く報告され、70ヵ国以上で5,600万人が感染していると推定されている。
アフリカ睡眠病	サハラ以南アフリカの36ヵ国で症例が報告され、2009年にそれまでの50年間ではじめて感染者数が１万人を下回り9,878人となった。2013年の段階で新規感染者数は6,314人である。
リーシュマニア症	90ヵ国以上で約1,200万人が感染し、１年間に130万人が新たに感染、２万～３万人が死亡していると推計され、感染のリスクに晒されている人々は３億人を超える。アフリカ、アジア、中南米、地中海沿岸などの地域で症例が報告されている。
ハンセン病	これまでに世界的に感染者が確認され、2013年末現在、103ヵ国で有病者数は180,618人、同年に発見された感染者数は215,656人である。
フィラリア症	世界58ヵ国で約12.3億人が感染のリスクに晒されており、１億2,000万人以上が感染している。アフリカ、東南アジア、南米の熱帯・亜熱帯地域に症例が報告されている。
オンコセルカ症	アフリカやラテンアメリカ、イエメンなどで症例が報告されているが、サハラ以南アフリカ31ヵ国で感染者の99%以上を占める。2,500万人が感染し、約１億2,000万人が感染のリスクに晒されていると推定されている。
狂犬病	これまでに150ヵ国を超える国や地域で症例が報告され、毎年５万人以上の死亡者が発生している。多くの症例はアジア、アフリカで報告され、これらの地域では30億人以上が潜在的な脅威にさられている。
住血吸虫病	2013年には少なくとも２億6,100万人が感染しており、4,000万人以上の人々が治療を受けている。症例の多くは熱帯・亜熱帯地域にみられる。
土壌伝播寄生虫症	世界で15億人以上が感染しており、サハラ以南アフリカ、東アジアなどの熱帯・亜熱帯地域やアメリカ大陸、中国などでも多くの症例が報告されている。
トラコーマ	世界51ヵ国で症例が報告され、約180万人の視覚障害患者の原因となっており、２億3,200万人が感染のリスクに晒されていると推定される。アフリカ、アジア、中南米、オーストラリア、中東地域で感染が確認されている。

＜典拠＞新山智基（2015）「アフリカ医療・感染症レポート：三大感染症・顧みられない熱帯病・エボラ出血熱を知る」新山智基編『アフリカの病・医療・障害の現場から：アフリカセミナー『目の前のアフリカ』での活動を通じて（生存学研究センター報告23）』立命館大学生存学研究センター、Vol.23、pp.71-75をもとに筆者修正・加筆。

04新山智基④.indd　36　　2015/12/09　14:58:33

参考文献

外務省「横浜行動計画」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/tc4_sb/pdfs/yokohama_kk.pdf
外務省「横浜行動計画（別表）」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/tc4_sb/pdfs/yokohama_bh.pdf
一盛和世・鷲見学・武井貞治・中谷比呂樹（2008）「顧みられない熱帯病－もうひとつのグローバルな課題」『公衆衛生』医学書院、第72巻第12号。
国際保健に関する洞爺湖行動指針：Ｇ８保健専門家会合報告書
Leaders' Declaration G7 Summit 7-8 June 2015（Ｇ７エルマウ・サミット首脳宣言）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000084020.pdf
London Declaration on Neglected Tropical Diseases
http://www.who.int/neglected_diseases/London_Declaration_NTDs.pdf
新山智基・福西征子（2009）「グローバリゼーションと顧みられない熱帯病－ブルーリ潰瘍の事例－」『セミナー医療と社会』セミナー医療と社会、第34号。
新山智基（2014）『顧みられない熱帯病と国際協力：ブルーリ潰瘍支援における小規模 NGO のアプローチ』学文社
新山智基（2015）「アフリカ医療・感染症レポート：三大感染症・顧みられない熱帯病・エボラ出血熱を知る」新山智基編『アフリカの病・医療・障害の現場から：アフリカセミナー『目の前のアフリカ』での活動を通じて（生存学研究センター報告23）』立命館大学生存学研究センター　Vol.23
竹内勤（2007）「わが国の国際寄生虫対策（橋本イニシアティブ）の展開」『アフリカ』アフリカ協会、第47巻第１号。
World Health Organization. (2004), 'Intensified Control of Neglected Diseases: Report of an International Workshop'.
World Health Organization. (2006), 'Strategic and technical meeting on intensified control of neglected tropical diseases: A renewed effort to combat entrenched communicable diseases of the poor, Report of an international workshop Berlin, 18-20 April 2005'.
World Health Organization. (2006), 'Neglected Tropical Diseases, Hidden successes, Emerging opportunities'.
World Health Organization. (2007), 'Global plan to combat neglected tropical diseases 2008-2015' .
World Health Organization. (2007), 'Report of the first meeting of WHO Strategic and Technical Advisory Group on Neglected Tropical Diseases'.
World Health Organization. (2010), 'Working to overcome the global impact of neglected tropical diseases: First WHO report on neglected tropical diseases'.
World Health Organization. (2012), 'Accelerating work to overcome t.he global impact of neglected tropical diseases － A roadmap for implementation'.
World Health Organization. (2013), 'Sustaining the drive to overcome the global impact of neglected tropical diseases: Second WHO report on neglected tropical diseases'.
World Health Organization. (2015), 'Investing to overcome the global impact of neglected tropical diseases: Third WHO report on neglected tropical diseases'.
吉田一郎（2012）「「顧みられない熱帯病」と製薬産業の取り組み－新興国における医薬品ニーズを考察する－」『政策研ニュース』医薬産業政策研究所、第35号。
「生きる価値ある世界を」『読売新聞』2015年６月３日付朝刊　７面

参考 Web サイト

Centers for Disease Control and Prevention: CDC
http://www.cdc.gov/globalhealth/ntd/
Ｇ８バーミンガム・サミット

04新山智基④.indd　37　　2015/12/09　14:58:33

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/birmin98/commun.html
Ｇ８北海道洞爺湖サミット首脳宣言
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/toyako08/doc/doc080714_ho.html
議長総括（Ｇ８北海道洞爺湖サミット）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/toyako08/doc/doc080709_09_ka.html
外務省　日本の感染症対策への具体的取組み（沖縄感染症対策イニシアティブ・フォローアップ状況）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/ko_2000/genoa/infection2.html
外務省　TICAD Ⅳフォローアップ（進捗状況：感染症対策）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/report/status/PR000174.html
外務省　2015　Ｇ７エルマウ・サミット首脳宣言（仮訳）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/ecm/ec/page4_001244.html
第４回グローバルリサーチカウンシル年次会合：安倍内閣総理大臣ビデオメッセージ
http://www.jsps.go.jp/j-grc/message_souridaijin.html
橋本総理大臣内外記者会見記録（1997年６月22日　於：デンバー）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/denver/kaiken.html
World Bank（HP）“Private and Public Partners Unite to Combat 10 Neglected Tropical Diseases by 2020,”
http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/NEWS/0,,contentMDK:23100187~pagePK:34370~piPK:34424~theSitePK:4607,00.html
World Health Organization / Neglected tropical diseases
http://www.who.int/neglected_diseases/en/

【各疾病の WHO Fact Sheet 情報（2015年６月20日閲覧・取得）表１参照】

Buruli ulcer　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs199/en/
Chagas disease　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs340/en/
Taeniasis/cysticercosis　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs376/en/
Dengue and severe dengue　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs117/en/
Dracunculiasis (guinea-worm disease)　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs359/en/
Echinococcosis　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs377/en/
Yaws　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs316/en/
Foodborne trematodiases　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs368/en/
Trypanosomiasis, human African (sleeping sickness)　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs259/en/
Leishmaniasis　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs375/en/
Leprosy　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs101/en/
Lymphatic filariasis　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs102/en/
Onchocerciasis　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs374/en/
Rabies　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs099/en/
Schistosomiasis　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs115/en/
Soil-transmitted helminth infections　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs366/en/
Trachoma　http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs382/en/

04新山智基④.indd　38　　2015/12/09　14:58:33